

主よ、私を癒してください

2021年8月22日

詩篇 6篇

序：病は身近なものとなっている（特別な人、特別なものではない）

2月21日 詩篇30篇（重病から癒され、床上げ、新たな出発）
（回顧、感謝、再献身、家をささげる歌）

今日の詩篇6篇は、病の最中、夜の歌

I. 人はなぜ病むのか？

(1)罪・咎のゆえ 詩30・6～7 高ぶり、不遜
健康、繁栄は自分にとって、永遠不変と思いつく
万事がうまくいっている＝神の恵みへの感謝くひとりよがりの肉的確信
特に問題がない、平穩無事の中で、必要な恐れ・警戒心をなくす

(2)病＝神の懲らしめ・罰
≠だれにでも可能性がある不運（自然発生的）

詩篇6・1 神からの責め・懲らしめ

II. 病の現状

(1)身体は衰弱、支柱である骨までも恐れわななき、震える 6・2

(2)たましいは恐れおののく 6・3

不信者：不運を嘆き、世を恨み、神を罵倒し、他の人を羨み、孤独感に陥る
信仰者：病中、憐れみと癒しを主に懇願（罪の自覚、神の怒り・懲らしめ甘受）
病床は、神に祈り、みことばを聞き、思い巡らし、告白をする隠れ家

III. 神への祈願 6・4～5

(1)私のたましいの救出
∴罪過に苦しむのは、身体ではなくたましい

ただ、あなたの恵みによって（自分にはいさおしがない）

(2)私の身体のいやし
∴死者は神を覚えることがない
∴ " ほめたたえることがない

たましいも身体も病苦から救い出される事を願ったのは、
☆再び、命を得て自分の思い願う人生（欲望、快楽を希求）を続行するため
ではない
☆再びいのちを与えられたら、神をほめたたえます！

IV. 病床の現実 6・6～7

- (1) 疲労こんぱい
霊魂は罪の責めと罪を認めることで
身体は苦痛と不眠によって
- (2) 溢れる悲しみの涙
目はいらだちで衰える
- (3) 敵の厳然たる存在
○ 病の苦しみ
○ 心の痛み
○ 彼の死を待ち望んで注視する者たち

V. 奮起 6・8～10

- (1) 神への信頼によって
神の恵み深さ・慈愛深さを知る者
神は祈りを聞いてくださると信じて
- (2) 敵への宣言
不法を行う者ども、私から退け（∵彼らの望みはついでた）
- (3) 神の応答に対する確信
私の泣く声を聞かれた
私の切なる願いを聞かれた
私の祈りを受け入れてくださる
- (4) 敵を撃退・勝利
敵の敗北（恥をみる、恐れおののく）
敵の速やかな撤退・敗走 瞬く間に！

VI. 適用（私が病む時）

- (1) 時間（主観的には均一に流れない）
苦難・何かを待つ時には長い
楽しい時・何かに没頭する時は短い
予想以上に長引くと、失望・不安・恐怖に陥る（もう、だめだ）
主が遅れているように思えても、必ず来られる（遅延は拒否ではない）
諦めてはいけない
- (2) 信じて祈る・祈っていただく
ヤコブ 5・14～15 信仰による祈りは病む人を回復させる
- (3) たとえ身体の病が癒されなくても、霊魂のいやし（罪の赦しと永遠のいのち）が
与えられるよう、祈り、とりなす
- (4) 信仰者が病から癒される ⇒ 新たなる神への奉仕への出発
列王記Ⅱ 20章のヒゼキヤ王は、長生きを恵まれながら、愚かな失敗を
した。敵を撃退させず、歓迎し、後代に災いをもたらした

結果：病前の回顧、病中の神との交わり、病後の感謝と献身、病者への思いやり